第7回国際動物叙事詩学会

原野　昇

この学会の第4回大会のことは，本誌第1号で報告した．第5回大会は1983年 9月5 ～ 9日にイタリアのトリノとサン・ヴァンサン（第1日目がトリノ，2日目以降はサン・ヴァンサン）で開催されたが，筆者は参加しなかった．第6回大会は1985年 9月29日～10月 3日にベルギーのスパで開催され，筆者も参加したが，これについては『学術月報』Vol.39 No1（通巻第 493号，1986年 1月，p.60）で極く簡単な報告を行ったし，慶応義塾大学の松原秀一教授が『流域』No.19 （1986，pp.6-12 ）で詳しい報告をされている．

今回の第7回大会（7e Colloque international de l'épopée animale, fable et fabliau ）は1987年 7月15～20日にイギリスのダラムDurhamで開かれた．ハルHull大学のBriant LEVY 教授が主に世話をされ，会長のグラスゴー大学のVARTY 教授が手伝われた．参加者数はほぼ前回と同じくらいであったが，従来開催期日の都合で参加者の少なかったアメリカ合衆国からの参加者が，今回は期日が7月になったので参加しやすくなり，約20名（同伴者は数えず）が参加していた．日本からの参加者は新村猛（名古屋大学名誉教授）夫妻，松原秀一（慶応義塾大学教授），福本直之（創価大学教授），近藤尋良（国際基督教大学大学院生）夫妻，筆者およびフランス留学中の大久保正美（早稲田大学大学院生）の各氏であった．新村教授はフランスのFélix LECOY 教授と並んで80才代の最高齢参加者であったが，お二人とも若い研究者にとって大きな刺激となっておられた．ただ，同じく高齢で足が不自由ながら前回まで毎回のように参加され，熱のこもった発表を続けてこられたオランダのアッシリア学者ハグティンギウス氏の姿が見えなかったのは少々寂しかった．その他ソ連からも今回は参加者がなかった．その代わり今回は，イスラエルからヘブライ大学のIssachar BEN-AMI氏が参加され，"Le monde des Saints et le monde des animaux : contenu et message"と題する発表をされたし，地元イギリスからケンブリッジ大学の著名なチョーサー学者Derek BREWER氏も参加され，"Traditional stories as recurrent problems" と題する発表をされた．BREWER教授は1976年に来広され，広島大学文学部英文学教室によって11月27～29日に宮島で開催された中世英文学セミナーの招待講師として参加されたし，本1987年 4月15日にも来広され広島大学で「チョーサーの騎士」という講演をされたので聞かれた人もあることと思う．

発表会は午前と午後のみでなく夕食後も午後8時から9時まで行われ，6日間で合計約60編の発表が行われた．『狐物語』およびそれに関連する諸作品（外国のものも含む）に関するものと，ファブリオーに関するものが多かったが，寓話，動物誌，民話など様々な作品が取り上げられていた．また今回も文学作品だけでなく，図像学的研究の発表もあった．

松原秀一教授は"Le Recueil d'Esope illustré du 17e siècle japonais"と題する発表をスライドを用いて行われた．筆者は福本直之氏と共同で，"Sur le fragment t du Roman de Renart"と題する発表を行ったが，これは先頃イギリスで発見され，広島大学が購入した『狐物語』の新写本についてのものである．この断片写本については，去る5月に学習院大学で開催された日本フランス語・フランス文学会1987年度春季大会でも報告したが，今回はその紹介だけでなく，この写本の中の一行について詳しく論じた．参加者の関心は高く，特にニューヨークのロング・アイランド大学のJoam B. WILLIAMSON教授は，是非この写本を見たいと申し出られ，去る8月20日，夫君の東京での国際会議参加に同伴して来日された機会に広島に来られ，本学図書館で半日じっくりとt写本を調査された．同女史は現在国際ランセスヴァルス学会のアメリカ支部の副会長であり，古文書学はパリのEcole Nationale des Chartes で校長のJacques MONFRIN 教授の指導を受けられた方である．同女史によると，t写本は鑑定書にある14世紀前半の作成よりも古い可能性があり，場合によっては13世紀の作のものかも知れないと述べられた．

学会4日目の夕には総会が開かれ，本学会の創設者であり，創立以来会長を務めてこられたグラスゴー大学のKenneth VARTY 教授が今回を最後に会長を辞され，代わってGabriel BIANCIOTTOポワティエ大学教授が会長に就任された．VARTY 氏は本学会の代名詞的存在であり，その場で直ちに名誉会長に全員一致で推挙された．VARTY 氏は満60才であり，新会長のBIANCIOTTO氏は50才過ぎである．BIANCIOTTO氏は17年間ルアン大学で教鞭をとっておられたが，MITTERRANDが大統領になってからポアティエ大学区Académie de Poitiersの大学区長Recteur を務めておられるので，昨年からポアティエ大学に移られたのである．大学区長というのは大学だけでなく，その大学区にある小学校，中学校，高等学校すべての総責任者であり重要なポストである．同氏は1967年頃，筆者の留学時代の指導教授故Robert-Léon WAGNER教授の助手を務めておられ，WAGNER教授が集中講義に出掛けられた留守中には教授に代わって授業をされていたので，筆者もその講義を聞いたことがある．また高等学術研究院Ecole Pratique des Hautes Etudesでは，LECOY 教授の講義に筆者と机を並べて聴講されていた．

なお，次回の国際動物叙事詩学会は1989年にスイスのローザンヌで開催されることが決定された．さらにその次の大会は1991年にオランダのグローニンゲンで開かれる可能性が強いという報告があった．